

# 施策評価シート（評価実施年度：平成27年度）

事務事業所管部局長 (幹事部局)	地域振興部長 鴨木 朗	電話番号	0852-22-5080
---------------------	-------------	------	--------------

## ①施策の目的等

施策の名称	<b>施策Ⅱ-5-2 地域生活交通の確保</b>
目的	県民が通学、通院、買い物等の日常生活を円滑に送ることができるよう、鉄道、バス、離島航路等の公共交通機関の運行を維持するとともに、地域が担う多様な輸送サービスの普及により、地域生活交通を確保します。

## ②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	数値目標	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
生活バスの年間利用者数	目標値		443.00	443.00	443.00	443.00	万人	一畑電車の年間利用者数	目標値		140.00	140.00	140.00	140.00	万人
	取組目標値					480.00			取組目標値						
	実績値	443.00	446.00	448.00	491.00				実績値	137.00	139.00	161.00	143.00		
	達成率		100.70	101.10	110.90				%	達成率		99.30	115.00	102.20	
隠岐航路の年間利用者数	目標値		44.00	44.00	44.00	44.00	万人	離島航路の岸壁の整備率	目標値		98.00	98.00	99.00	100.00	%
	取組目標値								取組目標値						
	実績値	44.00	42.00	42.00	43.00				実績値	97.00	98.00	97.80	97.90		
	達成率		95.50	95.50	97.80				%	達成率		100.00	99.80	98.90	
定性目標	平成24年度～平成27年度														
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活バスの年間利用者数は、県が運行支援した生活バスの年間利用者数を計上</li> <li>生活バスの年間利用者数は、H26年度から新たに通院系統路線を補助対象事業に拡充したことなどにより増加したが、一方で、H27年度は観光客の利用も落ち着いてくると見込まれることから、取組目標値を480万人として取り組む。</li> <li>一畑電車の年間利用者数は、出雲大社の大遷宮の効果の継続などにより、H26年度の実績がH27年度目標値を超えているが、H27年度は観光客の利用も落ち着いてくると見込まれるため、引き続きH27年度目標値140万人に向けて取り組む。</li> </ul>														

## ③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活バスは、複数市町村に跨る幹線系統、広域路線バスへの運行支援に加えて、近年は順次、生活交通系統（広域通学、通院、生活交通）への支援を拡充してきたことなどにより、利用者は491万人に増加した。</li> <li>一畑電車の利用者数は、定期・定期外利用とも前年度より減少したが、出雲大社の大遷宮効果の継続による観光需要などにより、目標を上回った。</li> <li>また、一畑電車支援計画に基づき、県、出雲市、松江市が支援を行うことにより、線路・電路・車両整備が計画的に進んだ。</li> <li>平成26年3月から就航した超高速船レインボージェットに対して、県、地元町村が導入・運航への支援を行うなど航路の維持を図っている。隠岐航路の利用者数は微増したが、本土隠岐間では横ばいの状況にある。</li> </ul>
---	---

## ④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいるが見直す点もある C:あまり順調に進んでいない	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活交通は、出雲大社の大遷宮効果の継続や観光キャンペーンによって、観光利用の需要増につながっているが、人口減少、少子高齢化、自家用車の普及により、地元利用者は、横ばいか減少傾向にある。</li> <li>一畑電車や隠岐航路については、地域の重要な交通手段であることから、県・地元市町村等が上下分離方式により、運行や施設整備に対する支援を実施し、路線維持や利用促進を図っているが、地域の交流人口拡大に向けた取組みを継続していく必要がある。</li> <li>西郷港の岸壁・心頭用地の造成及びレインボージェットが寄港する港の乗降施設が完成するなど順調に整備を進めている。</li> </ul>

## ⑤課題の認識

(1)平成27年度末の施策目的の達成状況（予測）	判断	その理由（「総合的な評価」の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載）
A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少、少子高齢化、自家用車の普及により地元利用者の減少は続くものと考えられるが、観光キャンペーンの取組、地域交通に対する運行支援の実施、利用促進に向けた県、地元市町村の取組などにより、一定の利用者数の確保が図られることにより施策目的の達成は可能。</li> </ul>
(2)施策の目的達成に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少、自家用車の普及などによる利用者の減少により、地域公共交通の確保が厳しい状況になってきており、特に、中山間地域においては、これらが顕著に現れてきていることから、公共交通の支援のあり方について、検討を進める必要がある。</li> <li>国と協調しながら、生活バス路線の運行支援や一畑電車支援計画に基づく支援を通じて、地域交通の維持を図るとともに、地元利用のみならず、観光部局、地元自治体と連携して観光利用の増加を図る必要がある。</li> <li>レインボージェットの安定的な運航やフェリーも含めた隠岐航路の利便性向上を図るとともに、利用者へのサービス向上に向けた取組を推進していく必要がある。</li> <li>来居港での内航フェリーの就航率向上のための岸壁改良工事の早期完成が必要である。</li> </ul>

## ⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の交通弱者をはじめとする地域住民の移動手段を確保していくため、集落間交通に対する運行面での支援策や、地域の実情に応じて最適な交通手段を選択できるような支援制度など、今後の支援のあり方について、市町村と一緒に検討していく。</li> <li>県、出雲市、松江市、一畑電車が連携して、次期5年間（H28～32年度）の一畑電車支援計画の策定を行うとともに、電車の更新など支援計画が着実に実施されるよう国への予算要望の実施や、通勤・通学利用者、観光客などの利用促進の取組みを進める。</li> <li>島民生活を支え、観光振興に不可欠な隠岐航路は、中長期的には旅客需要が減少傾向にあることから、交流人口拡大に向けて、利用者サービス向上の取組みが進むよう促していく。離島航路の運賃は、本土と比べて割高な水準にあることから、運賃低廉化が図られるよう国に強く働きかけていく。</li> <li>来居港では内航フェリー就航率向上に向けた岸壁改良の調査設計を終え、今後、重点的に整備を進める予定である。</li> </ul>
---------------------	---